

令和8年度 第1回

大阪府立狭山池博物館運営審議会

参考資料
（令和3年度 審議会資料）

令和8年7月16日

大阪府立狭山池博物館の効果的、効率的な運営について（答申）

1. はじめに

狭山池博物館は、狭山池のダム化工事（平成の大改修）の総合的な学術調査により得られた史実や堤をはじめとする多くの遺構などの展示により、平成 13 年 3 月に開館以降、これまでに約 188 万人余り（令和 3 年 11 月末時点）が来館され、安藤忠雄氏設計の圧倒的な存在感を示す建築物の中で、「狭山池をめぐる人と土と水の物語」の息吹を感じていただいている。

この博物館の運営は、平成 21 年から管理主体である大阪府、併設する大阪狭山市立郷土資料館の管理主体である大阪狭山市に加え、「狭山池」という地域の財産を継承・発展させたいという地域住民主体の狭山池まつり実行委員会の三者での協働運営を行っている。三者協働運営により、現時点では常設展示を良好に維持するとともに、多様な企画立案により年間約 10 万人の来館者を得ているが、財政的制約や限られた人的資源を勘案すると、効果的・効率的な運営に向け、博物館の持つ潜在的な可能性を踏まえ、また、とりまく環境を的確に捉え、取り組みの方向性を改めて再確認する必要がある。このため、平成 29 年 11 月 15 日に大阪府知事から大阪府立狭山池博物館運営審議会に対して、「大阪狭山池博物館の効果的、効率的な運営について」諮問があり、これを受けて、審議会を計 8 回開催し、本答申をとりまとめた。

2. 狭山池博物館の意義と目指すもの

狭山池博物館の意義は、設立当時は、「狭山池の歴史的価値・改修の歴史・平成の大改修」の内容と意義を後世に伝えることであったが、平成 21 年からの三者協働運営により、「土木の役割・意義の発信と将来に向けた展開・発展」、「現在の文化、人の交流の場として活用まちのシンボリック資産となり、まちの価値を高める」ことを加え、これまで運営を行っている。

狭山池博物館が今後、目指すものとして、常設展示等による①狭山池の歴史を通じ過去の土木技術を伝えることはもとより、全国で唯一の土木の博物館であり、②土木事業・土木技術の歴史の「知」の拠点としてのプレゼンスをさらに高める取組みも必要である。また、近年の激甚化する災害のなか、治水施設の役割をしっかりと伝え、防災教育拠点としての機能も果たす必要がある。さらに、狭山池が国史跡指定を受けるとともに、狭山池のダム化以降整備された狭山池公園における多様な主体による様々な活動がなされ、まちのシンボリック資産として、③地域魅力創造の新たな価値創造機能を高めしていく必要がある。

3. 効果的・効果的な運営について

狭山池博物館の効果的・効果的な運営の実現のためには、以下に示す 3 つの取組みを行い、博物館の魅力を向上させ、来訪者を増やすことによって、さらに効果的・効果的な運営システムを確立する必要がある。

（1）他機関と連携した新たな企画による来訪者数の向上（効果的な博物館運営）

博物館ポテンシャルを高める機関と連携して、研修、展示、講座、防災教育などを実施し、来訪者を呼び込むことで、博物館を「知」の交流、発信拠点の場として活用し、来館者数の向上を図る。

（2）博物館全体の空間の多様な主体による利活用（施設の効果的活用）

狭山池周辺のにぎわいづくりと連携して、博物館内及び敷地内を地域イベントや写真・映像撮影の場として提供するなど、博物館全体の空間の活用に取組む。

（3）中長期の取組み実現に向けた新たな収入（自主財源）確保

博物館の貸出施設の新たな活用として、全空間の使用料の設定や、目的別の弾力的使用料として、営利目的の使用料や撮影料金の設定、有料特別展等の実施のほか、博物館駐車場について、大阪狭山市と連携し、狭山池周辺の大阪狭山市が管理する駐車場との一体運営を行うなど新たな収入確保の取組みを進める。

4. 狭山池博物館の中長期に向けた取組みについて

（1）狭山池博物館の中長期に向けた取組み方針

狭山池博物館の中長期に向けた取組み方針を表のとおりまとめる。

表 狭山池博物館の中長期に向けた取組み方針

	取組の柱		
	土木の歴史的価値の継承	土木事業・土木技術の歴史「知」の交流・発信拠点	地域魅力創造
短期的取組み	○ 展示改善・収蔵品活用による魅力向上と発信強化	○ 土木の役割・魅力 P R ○ 防災教育の拡充	○ 地域魅力発信 ○ 多様な利活用推進
中期的取組みの方向性	○ 展示改善・収蔵品活用による魅力向上と発信強化 ・狭山池における研究・調査により得られた知識・情報を取り入れた展示・解説の提供 ・狭山池への興味の有無に関係なく、誰もがわかる展示・解説の提供 ・狭山池の必要性、重要性をより広く伝えるための情報発信 ○ 魅力的な展示充実（デジタル技術導入等） ・展示のデジタル技術の導入 ・展示と現物（狭山池）の一体化（狭山池現地の説明板改良等） ・残存する池守田中家文書の解説・発信	○ 土木の役割・魅力 P R ○ 防災教育の拡充 ・土木・建築などの関係団体との連携体制を構築し、情報発信、イベントの実施 ・集積した情報の適切な公開・発信 ・「日本最古のダム式ため池」「安藤建築」という特性を活かしたイベント実施 ○ 調査・研究の拠点機能強化（土木技術等アーカイブ整備・教育研修等メニュー充実） ・常設の防災教育拠点施設の設置 ・資料・情報等のデジタルアーカイブ作成	○ 地域魅力発信 ○ 多様な利活用推進 ・広報活動を通じた魅力の発信 ・ボランティア主導による地域に根差したイベントの実施 ・市のまちづくり基本構想との一体的な博物館運営の実施 ○ 狭山池と一帯の一体的魅力創造（狭山池の価値を高める環境整備） ・歴史資産の活用 ・狭山池に集える水と緑の歩行空間ネットワークづくり ・パークマネジメント（狭山池公園）との相乗効果発現（地域活動や日常利用の場の創出） ・民間による狭山池公園・狭山池博物館の運営サポート
長期的取組みの方向性	○ 常設展示の全面的リニューアル	○ 日本で唯一の土木主体博物館としてのプレゼンス確立	○ 狭山池を核としたまちづくり ・歴史資産の発信拠点形成 ・みどりの中心核としての賑わいづくり ・水と緑のアメニティ軸整備

（2）継続的な運営マネジメント

狭山池博物館の取組みの達成状況を評価するための成果指標と目標値を設定した。

成果指標は、博物館の来館者数を評価する来館者数（量的）と、博物館全体の満足度や取組みの柱毎の満足度を評価する満足度（質的）の 2 つの成果指標と目標値を以下のとおり設定した。

指標項目	成果指標の目標値（満足度（質的）はイベントアンケートの「満足」の割合）
来館者数（量的）	来館者数 年間 10 万人以上
満足度（質的）	博物館全体：75%、土木の歴史的価値の継承：70% 土木事業・土木技術の歴史・「知」の交流・発信拠点（防災教育拠点）：80% 地域魅力創造：80%

これらの成果指標の目標値をもとに運営主体が毎年度、PDCA による継続的な運営マネジメントを実施する。

成果指標の目標値は、運営主体において、適宜見直しを行い、概ね 5 年毎に中間評価を行う。

（3）狭山池博物館の中長期に向けた取組みについて

今後の狭山池博物館の効果的・効率的な運営については、以下の点について取組みを検討していくこと。

- 「いつも、来館者に新しい発見を！～狭山池の昔・今・将来～多様な主体による新たな価値・人の創造発信拠点」をコンセプトに狭山池博物館が目指すべき姿に確実に近づけるよう中長期的な取組みを推進。
- 他機関と連携した新たな取組みや狭山池の知名度の向上を目指した取組みを推進。
- 博物館内及び敷地内を地域イベントや撮影の場として、博物館全体の空間の多様な主体による利活用。
- 中長期の新たな魅力創出の取組み実現に向けた新たな収入（自主財源）確保に向けた取組みを推進。

5. おわりに

運営主体においては、答申を踏まえ、今後も狭山池博物館を末永く後世に引き継ぐことを期待する。

令和 3 年 12 月 大阪府立狭山池博物館運営審議会

【目標の具体化と指標の方向性】

- ・最終答申において取組み方針の達成状況を評価するための成果指標を設定
- ・来館者数は開館時からの目標である10万人以上、成果指標は、満足度調査結果を参考に設定
- ・成果指標に基づき取組みを評価するとともに、PDCAサイクルによる継続的なマネジメントを実施

